

秋の火災予防運動

10月15日～31日 火のしまっ君がしなくて誰がする

10月15日から31日までの17日間、秋の火災予防運動が全国各地で一斉に実施されます。この運動は、暖房器具を使用し始める家庭が多くなり、不注意や機器の故障などによる火災が多く発生する時季となることから、一人ひとりが火の元にじゅつぶん気を付けるとともに、地域ぐるみで火災を防ぐことをねらいとして実施しているものです。この火災予防運動を機会にもう一度火災予防について確認しましょう。

〈消防本部予防・保安グループ ☎ 423255〉

火災の出火原因と対策

住宅火災の主な原因は、住人の不注意によるものがほとんどです。たいせつな家族の命や財産を失うことのないよう、日ごろから「何が火災につながるのか」、「何に注意すればいいのか」を考えましょう。

▼出火原因① 放火

▽対策 家の周りに燃えやすい物を置かない
ごみは決められた時間帯に出しましょう。



▼出火原因② ストープ

▽対策 給油は火を消してから行う
周りに燃えやすい物を置かないようにしましょう。

▼出火原因③ たばこ

▽対策 寝たばこはしない
吸殻は火が消えていることを確認してから捨てましょう。

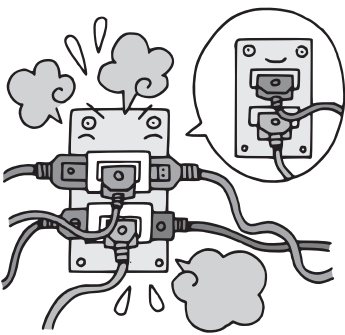


▼出火原因④ コンロ

▽対策 揚げ物中にその場を離れない
燃えやすい物が近くにないことを確認しましょう。

▼出火原因⑤ 電気配線

▽対策 たこ足配線はしない
延長コードなどに制限容量以上の器具を接続しないようにしましょう。



▼出火原因⑥ 子どもの火遊び

▽対策 ライターなどは子どもの手の届くところに置かない
日ごろからお子さんに火の恐ろしさを教えましょう。

早期発見のために 住宅用火災警報器を！

住宅用火災警報器は、火災発生に伴う熱や煙を感知してブザーなどで危険を知らせるもので、火災の早期発見と早期避難に非常に役立つ防災機器です。

住宅用火災警報器の奏功事例

女性が調理のため水を入れたフライパンをガスコンロにかけたが、そのまま寝てしまいがけ、過熱したフライパンから煙が発生。寝室に設置されていた火災警報器が作動し、警報音により目が覚めた女性がガスコンロの火を消し、火災にならずに済んだ。



これは道内で発生した、火災警報器により大事にいたらずに済んだ一例です。住宅火災からたいせつな家族を守るため、警報器は早めに設置しましょう。

悪質な訪問販売に注意

消火器と同様に、住宅用火災警報器でも悪質な訪問販売業者が出回り被害が続出しています。消防署が住宅用火災警報器を販売することや販売を業者に委託することは絶対にありませんので、じゅうぶんご注意ください。

ください。なお、不明な点は、消防本部予防・保安グループまでお問い合わせください。



■期間中、車両と有線放送による予防広報と、消防職員・団員による防火査察を行います。各家庭を訪問しますので、皆さんのご協力をお願いします。
■10月15日（水）午後8時にサイレンを鳴らします。これを合図にもう一度、火の元を確かめましょう。

高齢者

インフルエンザ

予防接種を受けましょう！

インフルエンザは、ただの「かぜ」ではありません。高齢者が感染すると肺炎などの合併症をおこし、重大な事態を招くことがあります。インフルエンザから身を守るには、流行前に予防接種を受けることが最も確実な方法です。市では次のとおり、主に65歳以上の方を対象とした予防接種を実施しますので、ぜひお申し込みください。

■接種対象者

市内に住所を有し、次のいずれかに該当する方。なお、年齢は接種日当日の満年齢です。

① 65歳以上の方

② 60歳以上65歳未満で、心臓やじん臓、呼吸機能に障害があるために日常生活活動が極度に制限される方（身体障害者手帳の内部疾患1級に相当）

■実施期間

平成20年11月4日から同21年1月30日まで（ただし、休診日を除きます）。

※インフルエンザが流行する前の11月～12月中旬までに接種することをお勧めします。

■実施医療機関と実施時間

左表のとおり。

実施医療機関	実施時間
歌志内市立病院 ☎42～3185	午前：8時30分～正午 午後：1時30分～4時 ※夜間診療（水曜日）は 午後5時～同6時30分
勤労者医療協会 神威診療所 ☎42～2025	午前：9時～11時30分 ※夜間診療（火曜日）は 午後5時30分～同7時

※接種日については、1日の接種人数に限りがあるため希望に添えない場合があります。

■料金 実施医療機関での接種に限り1人1,000円。

生活保護世帯の方は無料。

※他市町村の医療機関を利用される場合は全額自己負担となります。

■申し込み先

① 歌志内市立病院または勤労者医療協会神威診療所に通院されている方は、受診の際に各病院窓口へ。

② その他の方は、10月1日～12月19日までに保健介護グループ（☎423213）へ。

高齢者以外の方は…

実施の有無や料金などについては、各医療機関に問い合わせください。



インフルエンザ Q&A

Q インフルエンザと普通のかぜはどう違うの？

A 普通のかぜの症状は、のどの痛み・鼻汁・くしゃみや咳などが中心で重症化することはほとんどありません。一方、インフルエンザの場合は38℃以上の発熱・頭痛・関節や筋肉の痛みなど全身の症状が強く見られ、気管支炎や肺炎などを併発して重症化する特徴があります。

特に高齢者や、肺・心臓などに慢性の病気を持つ人は重症化する可能性が高いので注意する必要があります。また高齢者の場合、初期にはつきりした症状が現れにくく、知らないうちに重症化している場合がありますので、じゅうぶん注意しましょう。

Q インフルエンザを予防するにはどうしたらいいの？

A 一番は流行前の予防接種です。インフルエンザは、感染した人の咳やくしゃみなどにより放出されたウイルスを、呼吸により吸い込むことで感染します。インフルエンザが流行してきたら、人混みや繁華街への外出を控えましょう。また、空気が乾燥すると、のど粘膜の防御機能が低下するためインフルエンザにかかりやすくなります。外出時にはマスクを利用し、室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ちましょう。

Q インフルエンザにかかったらどうすればいいの？

A 早めの治療と休養を取ることが、他人にインフルエンザをうつさないという意味でもたいへん重要です。もしインフルエンザにかかってしまったら、次のことに注意しましょう。

・ 勝手にかぜだと思わず、早めに診察を受けましょう。

・ 安静にして睡眠をじゅうぶんに取りましょう。

・ お茶やジュース、スープなど、何でもかまいませんので水分をじゅうぶんに補給しましょう。

また、熱が下がっても2日間程度はウイルスを放出する可能性があります。インフルエンザの感染を広めないためにも、しばらくは人の集まるところに出ることは避け、休養を取るようにはしましょう。